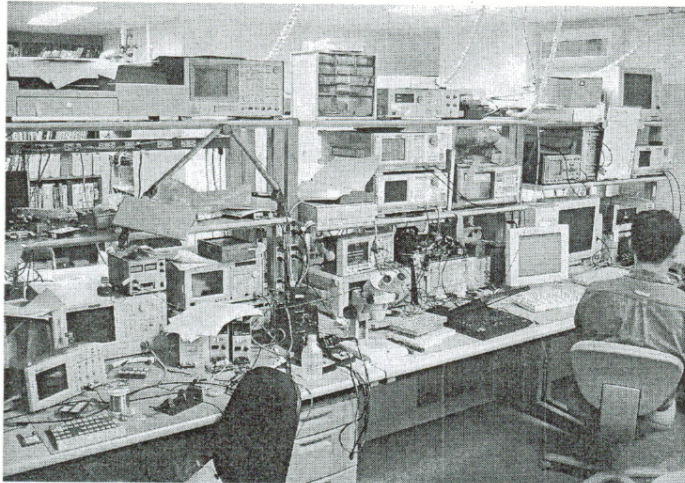


# 研究・開発に特化し急成長

## NEXT 市場&企業

### モバイルマルチメディアの世界に独自技術を提案 クインティリオン テクノロジーズ

## 新分野で可能性を追究 世界シェア100%の製品も



「エアプロトコルモニタ」などの開発が行われているクインティリオン・テクノロジーズの研究所

携帯電話・PHSなど無線通信技術の研究・開発を行ってベンチャー企業、クインティリオン・テクノロジーズ(東京・三鷹市)の業績が好調に推移している。第3世代携帯電話関連装置や、PHSデータ通信カード用IC(集積回路)など、モバイルマルチメディアの世界にさまざまな独自技術を提案し、売り上げは創業から3年で約3倍に伸びている。

クインティリオン・テクノロジーズが2000年に開発した「エアプロトコルモニタ」は、FOMA(NTTドコモ)やVGS(Jソフト)をはじめとする第3世代携帯電話で採用されている世界標準の無線通信方式「WCDMA」の電波を測定する装置だ。携帯端末と基地局の通信状態を

を検査し、接続の不具合の原因などを調べることができ、通信事業者はこれまで、携帯端末と基地局それぞれのメーカーの調査をもとに原因を探るしかなかった。同装置を利用することにより通信事業者のエンジニアが独自で電波状況を測定し、迅速で精密な原因究明が可能になった。

同様の装置は日本で開発・販売されているが、「WCDMA」向けは同社の製品のみに限られる。現在、世界シェア100%の同製品は、国内をはじめ海外の通信事業者、携帯端末メーカー、基地局メーカーなどのエンジニアを主な顧客としている。「WCDMA」は世界に先駆け日本へ導入された規格で、今後日本、欧州、米国を中心に世界的な拡大が見込まれる。日本の通信事業者は1997年から第3世代携帯電話の開発に着手し、2000年には本格的に普及させる予定だったが、いまだに「iモードNTTドコモ」、Jソフト「Jフォン」などの第2・5世代携帯電話に比べ、PHSデータ通信カード(NEC製)と

比べて不足などにより契約者の伸びは鈍い。加藤英樹同社社長は、「(第3世代携帯電話で可能な)動画などのサービスはまだ世の中で必要とされていないが、研究・開発は世界中で行われている。エンジニア向けのわれわれの製品は今、必要とされている」と同製品の市場価値を強調する。

一方、PHSデータ通信分野では、ノートパソコンの普及でデータ通信カード用ICを開発している。国内のPHS市場でシェア50%以上を占めるDDIポケットのデータ通信カード(NEC製)と比べて、PHSデータ通信分野では、PHSデータ通信は伸びている。高品質の動画などは高速通信が必要だが、電子ページの閲覧は128kb/パケットの速さで十分で、定額料金制を考えるとコストは魅力的だ。日本でも認められれば他国でも伸びる大きな市場であり、投資効果がある」と期待する。

また、中国市場でのPHSは「小靈通(シヤオリントン)」と呼ばれる、市内通話がほぼかけ放題。携帯電話よりも格安で利用できることから、人気を集めている。契約数は年間1000万のペースで増加し、現在は2000万件を超える。中国の端末メーカーから同社技術の問い合わせがあるなど、ビジネスチャンスが膨らんでいる。同社では14人の社員全員が研究・開発を行っている一方で、営業、マーケティング、製造、販売

して大手外資系コンピュータメーカーでLSI(高密度集積回路)・無線通信ベンチャー企業と大手通信機器メーカーで携帯電話の開発に携わった経験がある。

「われわれの仕事は、新分野でまったく新しい「0」のものを「1」にすることだ。「1」になったら興味はなくなりますが、10や100にしたい企業がいくらでも、また別の「0」を見つけて、それを「1」にしようとしている。企業は利益に結びつけることがビジネスとして重要だと言われているが、われわれには興味のないことでやりたいことではない」と同社社長は、未知の分野の可能性を徹底して追究する。

同社が現在重点的に取り組む分野は始まったばかりであり、今後さまざまな新サービスが予想される。研究・開発に強い意欲を持つ続ける同社の挑戦は続いている。

### 複数ベンチャー企業との分業で得意部門に集中

クインティリオン・テクノロジーズは、1社ですべての部門をまかなうのではなく、得意分野に特化するために複数のベンチャー企業と分業するという独自の新しいビジネスモデルを確立している。

顧客の要求や意見を製品開発に直接反映させるため、同社のエンジニアは販売委託先の営業担当者と同じく直接顧客と話しをし、「ニーズを聞く」「開発する人を使う人の距離が長いとカスタマイズは難しい。われわれは研究開発に集中するが、間に人を介してしまわないように努める」という考えが背景にある。同氏がエンジニアと

同社が現在重点的に取り組む分野は始まったばかりであり、今後さまざまな新サービスが予想される。研究・開発に強い意欲を持つ続ける同社の挑戦は続いている。

同社が現在重点的に取り組む分野は始まったばかりであり、今後さまざまな新サービスが予想される。研究・開発に強い意欲を持つ続ける同社の挑戦は続いている。

同社が現在重点的に取り組む分野は始まったばかりであり、今後さまざまな新サービスが予想される。研究・開発に強い意欲を持つ続ける同社の挑戦は続いている。